

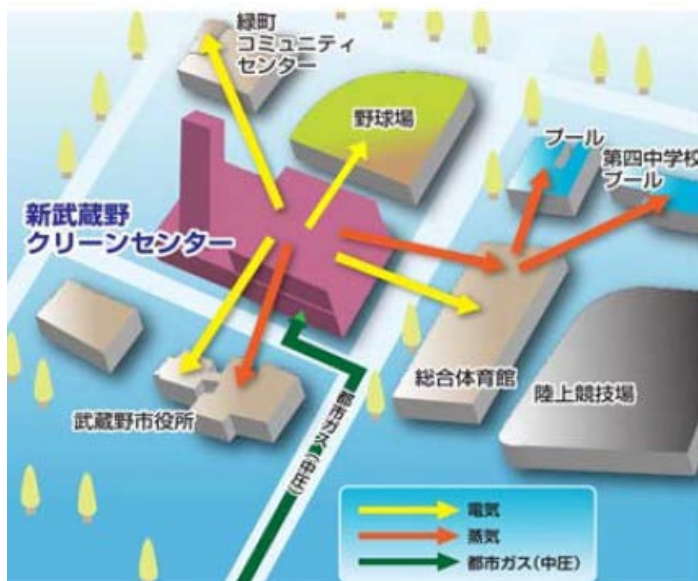
事例：東京都武蔵野市

- ごみ焼却施設の建替を契機とし、**廃棄物エネルギーを活用したエネルギー面的利用により災害時対応システムを構築。**

○ 事業概要

- ごみ焼却施設（武蔵野クリーンセンター）建替のタイミングで、**ごみ焼却に伴い発生する熱と電気を隣接する公共施設（市役所、総合体育館など）に供給するシステムを構築。**
- 電力が不足する時間帯は、センターが一括受電した系統からの電力と併せて近隣公共施設に供給。
- 災害時など系統からの電力供給が途絶えた場合には、常用兼非常用のガス・コージェネレーションの稼働によって発生した電力で焼却炉を再起動させ、防災拠点や避難所となる公共施設に必要な熱と電気を供給。
- 通常時にCGSを稼働させることにより、センターの焼却炉点検時における熱の安定供給や夏場のピーク時における買電量の削減といった効果も想定。

○ 事業イメージ図



(出典) 武蔵野クリーンセンターHPより

○ 事業スケジュール

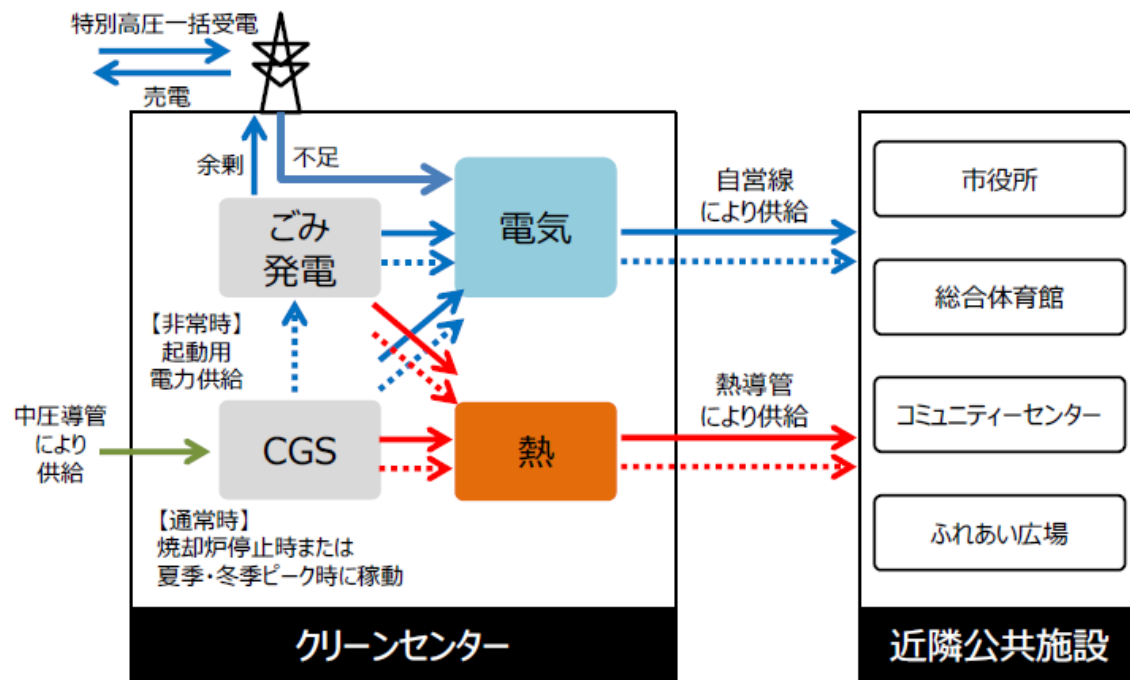
年度	スケジュール
2007	● 「武蔵野クリーンセンター施設基本構想」を策定（クリーンセンターの建替が決定）
2012	● 災害時の停電対応システムとしてエネルギー面的利用の検討開始・庁内調整・合意形成
2013	● 新クリーンセンター建設の入札公告・契約締結
2017	● 新クリーンセンター竣工
2018	● 新クリーンセンター稼働開始（供用開始） ● 周辺公共施設の蓄電池・EMS等導入に係る事業公募
2019以降	● 蓄電池・EMS構築等による清掃工場を核としたスマートシティ化の推進

※関係者へのヒアリングや公表資料等を参考に関東経済産業局が作成

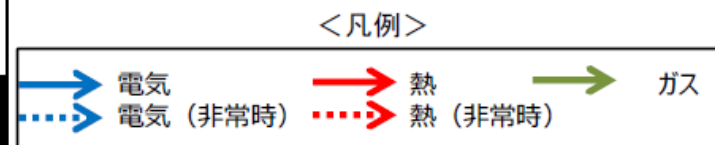
事例：東京都武蔵野市

○ 基礎情報

事業主体	武蔵野市（武蔵野クリーンセンター） 所在地：東京都武蔵野市緑町3丁目1番5号 連絡先：0422-54-1221
設備概要	(ごみ発電)抽気復水タービン発電機 2,650kW (非常用兼常用ガスコジェネ) ガスタービン発電機 1,500kW
延床面積	約17,000m ²
事業費	【建設費】約111億円、【運営費(20年間)】約103億円



出典：武蔵野市「新クリーンセンターニュース」
Vol.1 平成27年3月発行



事例：東京都武蔵野市（経緯・課題・ポイント）

事業の経緯

- 武蔵野市では、「武蔵野クリーンセンター施設基本構想」を策定し、老朽化が進んでいた旧クリーンセンターの建替が決定し、施設基本計画策定時に発生した**東日本大震災を契機に、周辺住民から「災害に強い施設づくり」の必要性について声が上が**り、行政(市)のイニシアチブにおいて、災害に強い自立分散型システムとして、ごみ焼却由来の熱・電気の周辺公共施設への供給を検討開始。

事業化への課題

- 事業案の具体化、監督官庁等との協議、市役所内の関係部署等の合意形成を新施設整備の入札公告までの**限られた期間(約1年半程度)で事業化決定する必要があった**。
- 新クリーンセンター建設担当が主導し、**限られた人員で上記各種調整を行う必要があった**。

事業化のポイント

- 東日本大震災後という時代背景による**防災性への地域住民のニーズに応える事業化計画**であったことから、短期間での事業化が実現できた。
- 各種調整担当が具現化に向けた意識・気持ちが強く・高い人員であったため、**機動的かつスピード感を持った合意形成**が実現可能となった。